



「夢」をつくる

相談支援室こうよう

青木 麻子

数年前、就労支援フォーラムに参加させていただき、特別講演「障害者就労のグランドデザイン」ふつうにはたらく、ふつうにくらす」の中で、障害を持って生まれた子にも「大きくなったら何になりたいの？」という声かけが自然にできる社会に〜というようなお話があった事を時々思い出します。

計画相談の過程を通して、ご本人の困りごとやニーズ、希望する生活を明確にし、その実現を目指す中で、

夢をみつけ、夢をつくり、

それぞれの歩幅にあった形でのお手伝いをしたいと考えています。

「つながり」をつくる

相談支援室こうよう

岸本 隆行

相談支援室こうようは昨年11月に開設した計画相談の事業所です。

現在は約60名の方が当所を利用していています。障害種別も身体的、精神と様々で、サービス利用先も施設入所支援から就労移行支援まで幅広い事業所を利用されています。

将来希望する生活も一人一人異なり、皆様の希望・願いをどのように具体的な支援につなげていけばよいか悩むことも多くありますが、事業所訪問時の利用者の方の活き活きした表情を見ると、自分も頑張らなくては…と励まされます。

開所したばかりのため、業務に慣れていないこともあり、ご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、支援機関とのネットワークを大切にし、利用者の方に寄り添った支援をしていきたいと思っています。

今後ともどうぞよろしくお願いたします。

「引きこもり」傾向のある人に関わる悲しい事件が続いた。就労支援センターには、高齢のご家族から自分が亡くなった後のことが不安。働かずにどう生計を立てていくのか。何とか就労させたい。と言った相談がある。

家から出てどこかと繋がって欲しい。切実な思いが伝わってくる。人との関わりで多くの辛い体験をした方は、「相談に行ってみよう」と決断し出向くことは勇気のいることだ。そんな勇気を称えつつ、丁寧に話を伺い一緒に考える。

面談後、「少し先が見えてきました」「家族以外の人と久しぶりに話ができ楽しかった」と感想を伝え次の面談を約束する人もいます。

「家から出て人に会うことは大変ではない・・・」と思えるきっかけを作ることができたらとても嬉しい。そうでない場合もある。どんな提案にも「そんなの無駄」「そういうの苦手」「あなたもわからない人ですね。何の役にも立たない」と怒り出す。

そんな時は、次の様な提案をする。「今はこれ以上考えられない。しかし、宿題としてあなたが受け入れられることを考え、必ず連絡します」と伝える。これで次につながる。その後、面談を繰り返し相手のことがわかってくる。そしてこちらの真剣さが伝わり、相手が受け入れても良いという関係を作ることが出来る。

このような関係性ができれば、少し厳しい意見や本音を言い合えるようになる。「人と関わっていくことは、辛いことばかりではない」と考えを変え、きっかけ作りになればと思う。

求職活動も仕事を継続していくことも、人との関わりが辛いものでないと思えたらきっとうまくいくはずだ。これらのことを、応援できるように私たちは、日々知識や情報を得て学んでいかなければならない。

戸塚就労支援センター

スター  
中島 契恵子